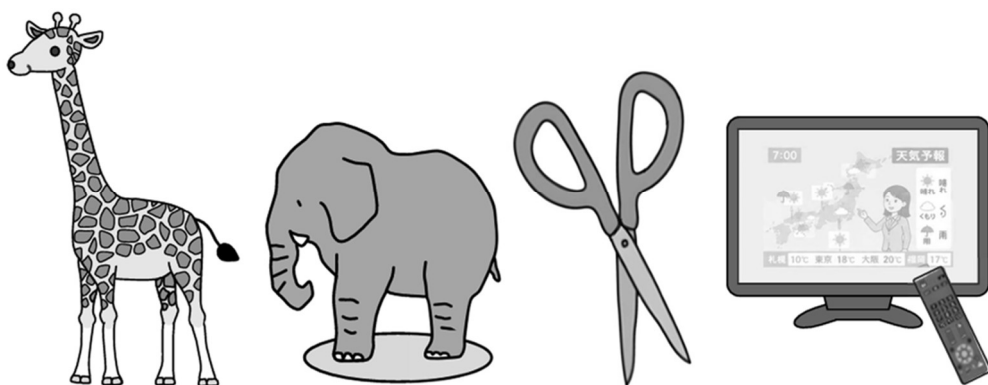


静岡県就学時言語検診 マニュアル

第2版 2026年9月



● 概略	-----	1
● 言語検診の必要性	-----	1
● 言語検診の準備と方法	-----	1
● 該当児童が外来に受診した時の対応方法	-----	3
● 言語異常の種類と外来での対応方法の例	-----	4
● 言語検診判定用紙	-----	裏表紙

静岡県耳鼻咽喉科医会・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 静岡県地方部会

学校保健委員会

静岡県就学時言語検診 マニュアル ver.2026

【 概 略 】

2016 年より、静岡県耳鼻咽喉科医会および日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会静岡県地方部会の学校保健委員会では、『静岡県就学時言語検診方法』を県下の耳鼻咽喉科学校医に推奨している。

- ・ 就学時に言語検診を統一した方法で行うことが望ましいと考え、『静岡県就学時言語検診マニュアル』（本マニュアル）を作成した。
- ・ 正確・簡便・短時間に行える「統一した方法」と、「診断後のフォロー体制」を整えた。
- ・ 『言語確認用絵図カード』（絵図カード）、『言語検診判定用紙』（判定用紙）等を導入した。
- ・ 該当児童の外来受診時に対応するために言語異常児の『紹介先一覧』を作成した。
- ・ この言語検診は義務ではなく推奨であるが、県下耳鼻咽喉科学校医全員の協力をお願いしたい。

【 言語検診の必要性 】

耳鼻咽喉科医師による学校健診の普及率は年々高くなっているが、学校生活を送るうえで重要な疾患の一つである言語異常の検診はなかなか普及していない。以前、学校保健委員会が県内で行ったアンケートでも、半数以上の医師は言語検診が「必要と感じている」が、「やり方がわからず自信がない」と回答。その理由として、「正しい言語検診方法がわからない」、「準備や検診に時間がかかる」等、様々な問題点が挙げられた。

言語異常に関しては、小学校就学時の時点ではほとんどの症例が既に診断されていると思われる。しかし、逆に就学時の時点でまだ見つからない言語異常をもつ児童にとっては、この就学年齢の 5, 6 歳が言語異常発見の年齢的な最後の砦となる。また、その診断には我々耳鼻咽喉科医師が専門の構音器官や難聴の有無の確認が必須である。残念ながら、現状では小学校就学時までに、我々耳鼻咽喉科医が幼少児に対して言語スクリーニングをする機会が存在していない。以上より、小学校入学前の就学時健康診断において、耳鼻咽喉科医が介入して言語検診を行うことが、必要不可欠であると考えられる。

【 言語検診の準備と方法 】

事前準備

- 担当小学校（地区）に、就学時健診において「静岡県就学時言語検診」を取り入れる旨を連絡。
- 例年より少し時間がかかることを伝える。
※検証では児童一人あたり、平均 10 秒程度、余計に時間がかかる。
- 『判定用紙』を、対象健診人数を目安に用意（健診当日持参）。
※文献では、6 歳児平均で 100 人当たり 10 人程度の疑い児童が見つかるとの記載もある。
- 『絵図カード』、『判定用紙』、『紹介先一覧』の準備

※静岡県地方部会のホームページ（<http://www.shizuoka-jibika.jp/>）からダウンロード

○言語確認用絵図カード：健診に持参（B5 サイズ カラー 表裏）（既に県内校医には配送済み）

○言語検診判定用紙：健診に持参（A4 サイズ 白黒）

○紹介先一覧：外来で使用（A4 サイズ 白黒 2 枚綴り）

※『紹介先一覧』は、皆様の診療所や病院の外来等で活用してください。

※教育委員会等、各関係団体には説明済みです。各地域の現状と照らし合わせ、問題がある場合は学校保健委員までご連絡ください。

健診会場での指示

健診を担当する教諭に下記方法を説明する。

- 言語検診を行うので、児に静かに待機するように指示。
- 言語に異常がありそうなら『判定用紙』に名前を記入し、チェックをいれる旨を説明。
- 言語異常疑い児には、他の健診結果と一緒に『判定用紙』を家族に渡すように指示。

言語検診当日の手順

- ① 『絵図カード』と『判定用紙』（100 人あたり 10 枚ほど）を検診会場に持参。
- ② 「〇〇（名前）です。」と自分の名前を言わせる。
- ③ （従来通りに）耳・鼻・のど、を視診。
- ④ 『絵図カード』のおもて面のみを見せて、4 つの絵図の名前を答えさせる。
（うら面は検診時での確認が必要な場合や、一般外来での診察時にお使いください。）

以上で、「問題なし」 ⇒ 終了

「問題あり」 ⇒ ⑤以降へ

- ⑤ 『判定用紙』に、児の名前、間違えて聞こえた内容、言語異常の内容等を記入。
- ⑥ 他の健診結果用紙と一緒に家族に渡す。

※時間があり、更に検査が必要な場合は、以下を参考に追加の確認も検討する。

- ・ 色々な質問を追加：「何歳？」「誕生日は？」「好きな食べ物は？」等々。
- ・ 口腔内の更なる観察：舌小帯や粘膜下口蓋裂等に注意。
- ・ 親が同伴している場合は、親に質問（日常会話やことばの教室等の病歴等）。
- ・ 『絵図カード』のうら面にて確認。

● 『絵図カード』の使用方法と時間短縮のコツ

- ・ 絵図カードを首から下げて使用し、持ち替える時間を減らす。
- ・ 児の口元を見るために、絵図を見なくても 4 つの絵図を指さしできるように事前に練習。
- ・ 各絵図の下に読み方や間違いやすい発音方法を記載しているが、基本は指で隠しながら絵図を指し示す。
- ・ 「テレビ」を「パソコン」等、言い間違えた時には、読み方を見せるか、学校医が「テレビ」と発音して復唱させる。
- ・ 間違えた発音や判断困難な発音をした場合は、再度発音させて再現性を確認する。

●『判定用紙』の使用方法と時間短縮のコツ

- ・短時間の検査なので、気になった発音は自信がなくても該当箇所にチェックまたは記載する。
- ・判定用紙の児の名前は時間が少ない場合は「ひらがな」や「カタカナ」での記載も可。
- ・健診医の名前は、他の健診勧告書も無記名であり、時間短縮のためにも無記名とした。
- ・家族に渡す方法は、先生に渡す、児本人に渡す等、地域によって異なるので臨機応変に対応。

●『紹介先一覧』

- ・「言語聴覚士所属施設」と「ことばの教室」の2種類を用意。
- ・「言語聴覚士所属施設」は小児の言語を専門とする言語聴覚士が所属している施設。
- ・「ことばの教室」は耳鼻咽喉科医からの紹介を受けられる、と回答した先生がいることばの教室。
- ・異動等があるため基本的に毎年改定し、秋頃にメーリングリストやホームページで公開する。
- ・地区によっては網羅できていないこともあるので、紹介前に各施設に確認が必要。

【 該当児童が外来に受診した時の対応方法 】

- 普段通りの言語障害児症例の同じように、口腔内観察や難聴の有無の確認。
- 診察時の手間を少なくするために、児童が持参した『判定用紙』を活用。
『判定用紙』により言語検診で指摘された異常発音の再現性を確認。
- 記載されている単語は練習している可能性が高いので、再現性の有無にかかわらず、『絵図カード』のうら面を用いて、指摘されている間違いと同じような単語を発声させて確認する。

再現性や異常がない場合

先生のご判断で問題なければ、その旨ご家族に伝える。検診は短時間での診断であること、就学時健診という環境でご本人も緊張していたため、言語障害疑いという結果になってしまった可能性があること、等を説明。

再現性がある等、異常が確認された場合

当マニュアルの次頁以降「言語異常の種類と外来での対応方法」を参考に診療。

- 診断、加療、訓練等が可能 → 貴院の外来でフォロー。
- 診断に苦慮する症例、更なる診断や訓練等が必要な場合
→ 先生が安心して紹介できる医療機関や施設があれば、そちらに依頼。紹介先がわからないときは、『紹介先一覧』を参考に紹介。
- 『紹介先一覧』の2種類を使い分ける。
 - ① 『言語聴覚士所属施設』 小児言語を専門とする言語聴覚士の先生がいる施設
 - ② 『ことばの教室』 耳鼻咽喉科医からの紹介児の受け入れが可能なことばの教室(作成協力 : ①静岡県言語聴覚士会 ②静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会)

※言語聴覚士やことばの教室は担当者の異動があるため、基本的に毎年最新版に更新する。

【 言語異常の種類と外来での対応方法の例 】

言語障害の種類と、それぞれの主な疾患に対する対応方法をご紹介しますので、参考にして診療を。

- 言語障害は下記の5種類に分類される
 - I 発達障害による言語障害
 - II 聴覚障害による言語障害
 - III 心因性言語障害
 - IV 吃音
 - V 構音障害（置換・省略・転置・歪み等、ここでは簡易分類を示す）
- 言語障害の種類ごとの各論と外来対応方法の例を下記に記す。

I 発達障害による言語障害

- いわゆる「言語発達遅滞」で、「ことばの表出の遅れ」と「理解の遅れ」があるもの。
- 原因は「知的障害」、「発達障害」、「難聴」等。※「難聴」は我々の専門なので下記IIを参照

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- 可能であれば難聴の有無の確認
- 発達の遅れが診断されていない → 『小児科依頼』
- 他の発達の遅れを優先するが、必要なら → 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

II 聴覚障害による言語障害

- 耳の診察
- 聴力検査は必須

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- 伝音難聴等、治療可能な難聴 → 『治療』
- 感音難聴が初めて見つかった → 『精密聴力検査機関』
- 既知の感音難聴 → 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

III 心因性言語障害（主に場面緘黙）

- 緊張した場面等により黙ってしまう（就学時健診では多い）。
- 無理に聞くと余計喋らない → 検診では判定用紙にチェックして外来受診を促す。
- 稀に、吃音を隠すための沈黙のことがあるので注意。

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- もう一回絵図カードで確認
- ご家族に普段の喋り方を確認
- 小学校入学後に治ることが多い → 『自院での数か月後の経過観察』
- 吃音が隠れていたり、診断困難なら → 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

Ⅳ 吃音

- ・ 連発（音節や語の繰り返し） 「カ、カ、カ、カ、カラス」
- ・ 伸発（引き伸ばし） 「カーーーラス」
- ・ 難発（発話開始の遅延） 2 秒以上出てこない。
- ・ 吃音は専門的な治療をしなくても 6～8 割は自然治癒することがある、ともいわれている。
- ・ 3 年以上経過していると自然治癒の可能性は低い。
- ・ 就学時健診で見つかる吃音は、すでに 1 年以上経過していることも多い。
- ・ 本人の意識改革、周囲の理解と協力が必要。

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- 発症後 1 年未満で悪化傾向がない → 『自院での数か月後の経過観察』
 - 経過観察で軽減しない
 - 重症例
 - 本人が気にしている
 - 家族の不安が強い
 - うまく対応できそうにない
- 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

V-1 構音障害（置換・省略・転置）

※ここでは簡易的な分類方法で説明

- ・ 置換 例：ハサミ hasami がハタミ hatami （s が t に置換）
- ・ 省略 キリン kirin がキイン kiin （r の省略）
- ・ 転置 テレビがテビレ（語音が入れ替わる）
- ・ これらの構音障害は入学して、音読するだけで治ることも多い。
- ・ 就学時健診の短時間では、他の言語異常があるかどうかわからない → 判定用紙に☑して渡す。

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- 指摘された単語は家で練習し、治っていることが多い → 絵図カードの裏面で確認
- 置換、省略、転置のみなら → 『自院での数か月後の経過観察』
- 軽快傾向がなければ → 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

V-2 構音障害（歪み）

- ・ 歪みの代表が「側音化構音」で最も多い。
- ・ 日本語での標記ができない発音の仕方。
- ・ 発音時に口角が上もしくは斜め上に上がり、呼吸を口角から逃がしながら発音する。
- ・ イの段に多い 例：/キ/→日本語表記できない、/ギッ/や/ヴィ/のような感じの音に。
- ・ 訓練すれば治ることも多い。
- ・ 小学 2 年生までに直さなければ、高校生になっても続くことがある。

◆◆ 外来での対応方法 ◆◆

- 側音化構音と診断、もしくは疑わしければ → 『言語聴覚士所属施設』・『ことばの教室』

言語検診判定用紙

さんのご家族へ

本日の耳鼻咽喉科の就学時健康診断で、ことばの発音に関して気になるところがありました。短時間の健康診断ですので、お子さまの発音が悪い、と診断したわけではありません。念のためにもう一回、耳鼻咽喉科で確認させてください、という結果です。

お子さまの発音で、☒ のところが気になりました

- 【きりん】 ☐ きいん ☐ ちりん ☐ ちいん ☐ ()
- 【そ う】 ☐ どう ☐ じょう ☐ おう ☐ ()
- 【はさみ】 ☐ はしゃみ ☐ はたみ ☐ はあみ ☐ ()
- 【てれび】 ☐ てえび ☐ てびれ ☐ てべり ☐ ()
- 【その他】 ☐ 吃音 ☐ 側音化構音 ☐ 場面緘黙 ☐ 舌小帯短縮 ☐ 発達
- 【コメント】 ()

- ご家庭でも、☒ のついた項目をご確認してください。以前よりおかしいと感じていたり、よくわからない場合や、お子さまの「ことば」に関してご不安やご心配がございましたら、耳鼻咽喉科に受診してください。
- すでに医療機関やことばの教室等に通っているお子さまも、今まで「ことば」に関して耳鼻咽喉科での受診をしたことがなければ、主治医やことばの教室の先生とご相談の上、耳鼻咽喉科での診察をお勧めします。
- 耳鼻咽喉科に受診の際は、この用紙をお持ちいただき、健康診断担当医の判断を外来担当医にお知らせください。

耳鼻咽喉科 外来ご担当先生へ

就学時健康診断で上記の点が気になりました。健診時の短時間の診察の結果ですので、たまたま異常に聞こえてしまった可能性もあります。ご多忙のところ申し訳ありませんが、念のためにことばの発達をご確認ください。必要に応じて、聴覚障害の関与もご確認ください。言語異常の再現性が確認されたり、診断や治療が必要と考えられる場合は、貴院にてご加療いただくか、言語異常疑い児用の『紹介先一覧』をご参考にご紹介ください。

令和 年 月 日

就学時健診 耳鼻咽喉科学校医（無記名）